



景清外傳

二編

一

^ 13
2891
6



門へ13
2831
6

景清外傳

一名松の操

絳山翁戲編 耕文堂
歌川國直画 平川館 合梓

有序

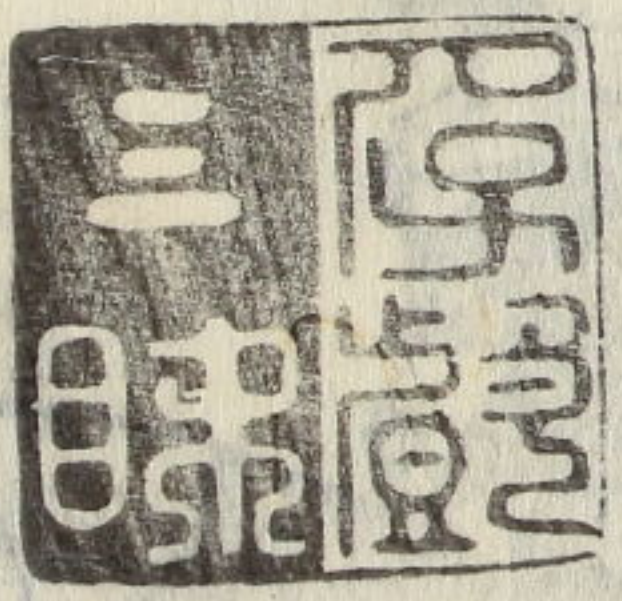
昭和九年七月三日

去年書肆が需ふまじく、景清が事を知漢
の小説より、翻案する。夏五巻より、及ぶ。操を
して想々、説話の裨史編、此子羅氏の前戒
あり、と躊躇して、これを以て、終つる。月何り、書は新
鏝の期、後を患、脱稿五巻を鏝木して、散部帛せり。
尚殘編を需ふ稿未成り、書肆憤て、僕が怠惰
を責、懦夫の性、慥弱と、前を誥し、今更辭

景清外傳

かゞく、再筆を下し編を鼎事十巻稿成き
肆不與ふ、香桂喜く刊字不近ふ命、前の五
巻と合し十有五巻全からせん、あまごの数百千
の文字、俄頃不却を奏せざらん、五巻を割く二編
と、今春正に發兌せり、殘編五巻を三編と、日
あらごとして出さざらん、元此野史と、柳實事成
述ど、鄙語里談をもて文を成べ、院本もも不如
也、唯總に巻の終ふをり、景清が事實を古書
中より取出さるれば、此書を以て、喜子景清
が事を識一助なる、蘇武か。

文化丙子孟秋絳山樵夫題於獨醒書
屋之小窓下



有隣錄





男女無別逐

相奇誘

華落色衰復

比佐女



相乗背



伊場の十三

ちりひかつまをき
近経妻賤機

あんど
本田二郎近経

黒詞暫見
櫻桃破死
盞透開莖
世香

あんのちうご
馬場忠太

景清後集

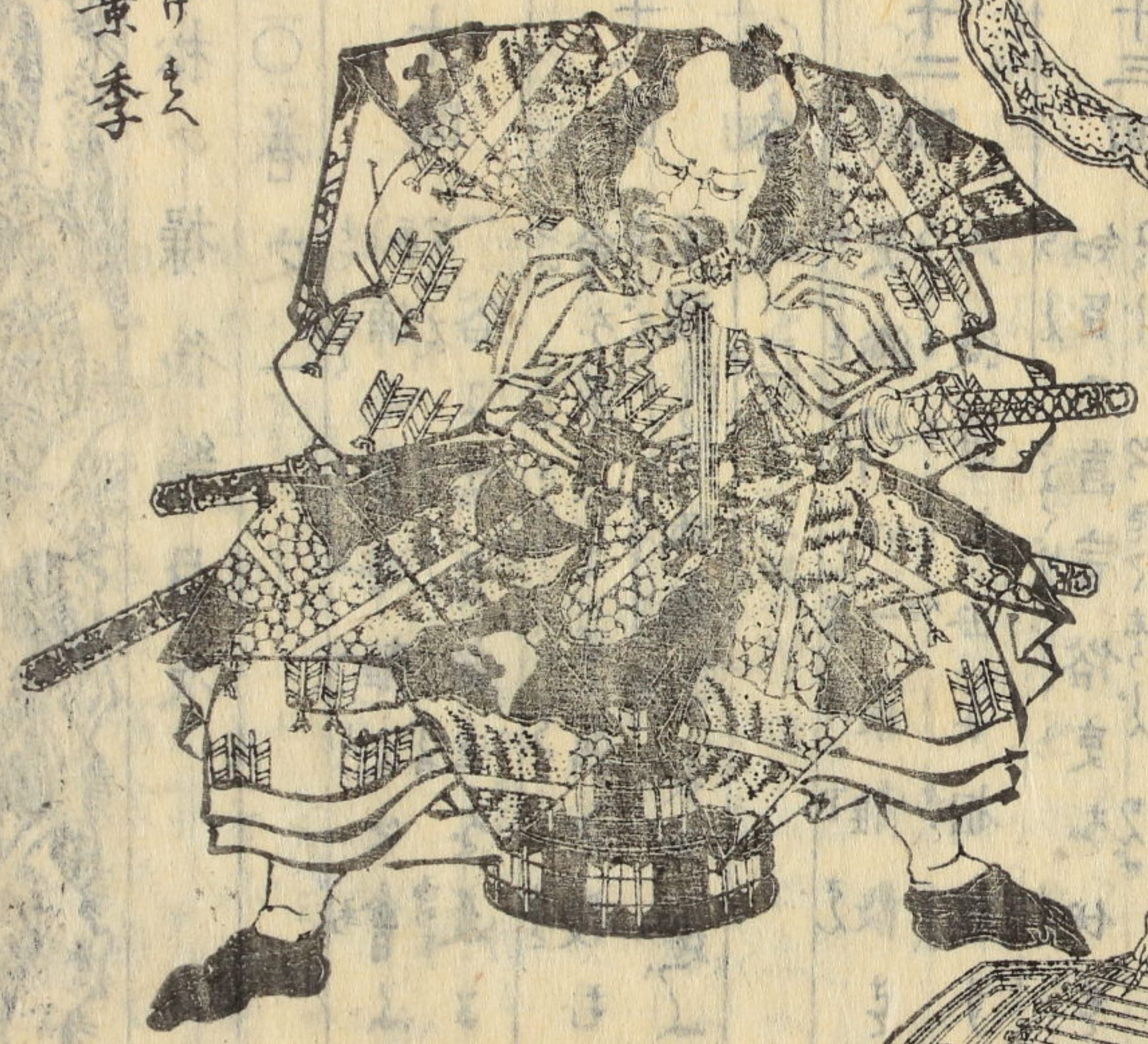


島山重忠

巫山夜雨

湘水清波
指下生

梶原景季



人九

外傳 景清 松の操 後編 目次

○卷之一

第十回

袖浦ふ貞婦離れに會ふ
一谷ふ忠臣故主を返す

第十一回

命を承三士平屈と捜む
不圖して両雄収兵成逐ふ

○卷之二

第十二回

矢波川に一家離散を
六波羅に母子相會す

第十三回

知臣の直言俗吏を伏せ
幼見乃一曲衆人と感む

○卷之三

第十四回

旅宿に男塔形と相変を
公庭に主客修成訟評す

○卷之四

第十五回

志を感じて義男黄金と与ふ
利を餌みして貞婦罪科と救ふ

第十六回

非奴悔く奸邪自ら知み伏せ
途を過つて勇士會ふ首と獲り

○卷之五

第十七回

馬籠嶺に豪傑兄と逢ふ
木曾山に忠臣主と忍ばむ

第十八回

劍と賜く壯士彌余に赴く
術と施して故僧岸驛に陰る

通計 九回

景清外傳前編大意
景清は幼少の患九父の上様忠清母の熱田大官司の母也小叔大日坊に
養育せられたるは自教も後大日坊忠清の家にも思ひ入り刃宝を盗む
徳丸の色と被ありと多ひ提へて刺殺す不圖母の仇を報ふ此より赤七
多傳系信と名乗尾張國熱田に居たり嘗て父を長田季致に殺す子季
親の専ら玉苗と名乗婦にして夫の同性致平と奸通お後て夫を冤罪を負ひ
致平に殺して所賣せり季信は入道て怒りに徳丸を奸夫婦を殺害して
季親を獲ひ出せりを厚家師に上り辨故は古谷が孝を感へて孝を
入丸を生む籍波二弟系信を然むてあり籍波をめて罪を免れんと季親
こそは借前の思を報んしああれ系信に代らん古谷に感るる及び兄
妹ありてを知らぬ時平家京師をみて系信もそのは忍國に對ひて未子殺る
古谷母子故の爲に槍とらんてをれおのを伊場の十三と名乗して古
谷と名乗りて迫りぬ走りぬ混置湖みして戸平次とらんものに古
谷を奪はれぬと十三様をめて奪返すは古矢海川に母ふまを記
せん叶他本田二弟夫婦の工籍波二弟が工をどまの籍波あり

景清外傳 松の操後編 卷之一

東都 絳山戲編

第一回
袖浦小貞婦 離去し金
谷ノ忠臣 故主を夢る

松山重能小山田有重の兄弟の平家公奉公し都に在り先帝安徳
天皇西園遷幸の折に平家重能有重の兄弟は弟の眼を賜ひ
二人は急ぎ東園に下りぬ時を往が子を忠に弟小徳倉とわふまを
まの世に二の忠家おまをむぬ人目出しく射めまむ世を忠に
はしく降参を乞ふおがて免れぬ義の徳倉との入系せりかまを
父祖の回功をおがしおせのひつまむまの命ありて今日より
左右の存とぬと此後二人の感謝しこまより二の忠を存す日毎に

出仕せし且鏡小山田別當有重あつまの弟あつま東國あづま下る折あつ大津あつの流あつして不
 意あつ本田あつ次郎あつが妻あつの賤あつ撥あつね女あつとあつりてあつ街あつ狐あつ仲あつ吟あつ志あつとあつのあつきあつ鰐あつ狐あつとあつふ
 思あつひあつをあつ相あつ俱あつくあつ東あつ國あつ下あつりあつてあつ勅あつ下あつ保あつ保あつさあつるあつ小あつ日あつああつらあつむあつてあつ病あつ息あつ
 了あつ遂あつ又あつかあつれあつるあつはあつくあつ縁あつ友あつとあつ本あつ田あつ去あつ向あつ狐あつ尋あつるあつ小あつ賊あつ乃あつたあつれあつは
 夫あつ邊あつ經あつ邊あつのあつ湖あつ水あつ入あつ水あつせあつりあつりあつああつのあつねあつ氣あつせあつりあつまあつであつ有あつ枝あつ有あつ葉あつをあつ鏡
 給あつ乃あつのあつ為あつ今あつ次あつ嘆あつくあつゆあつぞあつ有あつ重あつとあつ互あつ不あつ復あつとあつああつひあつかあつくあつ惟あつ狐あつ撥あつ索あつ出あつ
 今あつのあつ怒あつをあつ時あつをあつ時あつのあつ至あつるあつをあつ時あつとあつ多あつくあつ結あつゆあつ厨あつめあつてあつ暫あつ時あつ我あつ家あつは
 居あつりあつけあつるあつ不あつ在あつ結あつ下あつ再あつ送あつ去あつ年あつのあつ末あつ頃あつとあつもあつ鏡あつ倉あつとあつもあつ木あつ曾あつ義あつ仲あつとあつ同
 不あつ和あつよあつるあつとあつけあつれあつずあつ結あつ團あつのあつ源あつ氏あつとあつもあつをあつ危あつぶあつとあつ安あつきあつんあつとあつるあつりあつるあつ本あつ身あつより
 ちあつくあつ多あつくあつ小あつ珠あつとあつ嬌あつ男あつ清あつ水あつのあつ符あつ者あつ瓜あつめあつてあつ人あつ質あつとあつてあつ鏡あつ倉あつへあつ送あつりあつてあつまあつひ
 たあつれあつずあつ鏡あつ倉あつとあつのあつ疑あつひあつ忽あつちあつ散あつれあつ也あつ同あつ復あつ古あつとあつああつるあつ小あつ清あつ水あつ符あつ者あつ義

高あつをあつりあつてあつ一あつ大あつ姫あつとあつ妻あつとあつりあつるあつ世あつ姫あつ君あつとあつりあつるあつ所あつのあつ復あつ小あつ出あつせあつせあつ受あつへ
 此あつ疑あつもあつもあつ昔あつのあつ用あつひあつとあつ目あつ出あつとあつぞあつああつりあつけるあつ爾あつもあつ今あつ年あつ元あつ曆あつ元あつ年あつ正あつ月
 のあつ始あつよりあつ木あつ曾あつとあつのあつ謀あつ及あつのあつ仲あつありあつてあつ再あつびあつ鏡あつ倉あつ殺あつとあつ吳あつ越あつのあつ同あつとあつるあつとあつくあつるあつ
 鏡あつ倉あつとあつとあつ對あつ面あつとあつてあつ蒲あつ翁あつ者あつ純あつ賴あつ源あつ九あつ郎あつ義あつ經あつ都あつをあつとあつりあつてあつ純あつ上あつ臣あつ
 木あつ曾あつもあつこあつもあつ不あつ防あつ人あつとあつ都あつよあつるあつにあつ別あつとあつ出張あつ也あつ栗あつ津あつはあつああつりあつてあつ合あつ戦あつあるあつ一あつ門
 のあつ争あつひあつるあつ目あつ不あつ互あつとあつ和あつをあつ思あつひあつつあつ心あつ死あつのあつ戦あつりあつはあつるあつがあつ鏡あつ倉あつ方あつへあつ送あつりあつるあつ
 勅あつ命あつをあつ直あつ承あつりあつるあつ目あつ不あつ遂あつはあつ木あつ曾あつにあつ對あつ面あつとあつ義あつ仲あつをあつ始あつとあつりあつてあつ家あつ子あつ郎
 堂あつ悉あつくあつ栗あつ津あつのあつ處あつとあつ清あつとあつりあつ清あつ水あつ符あつ者あつひあつをあつ他あつ人あつ使あつめあつひあつりあつ朝あつ敵あつの
 子あつハあつ脱あつ下あつとあつ自あつらあつ白あつ又あつ伏あつとあつ命あつをあつ縮あつめあつめあつひあつけるあつ大あつ姫あつ君あつへあつまあつをあつ哀あつしあつて
 益あつ疾あつ悲あつ嘆あつとあつ流あつとあつりあつてあつ遠あつみあつらあつ煩あつやあつうあつるあつをあつああつらあつむあつぞあつ清あつ水あつ不あつ送あつりあつるあつまあつらあつと
 大あつとあつりあつてあつ醫あつ膏あつ瘡あつハあつとあつりあつ神あつやあつ仁あつはあつ姫あつのあつ病あつ平あつ倉あつとあつりあつてあつ新あつとあつりあつるあつまあつらあつと

清後集卷之一

のちの岩間小階を還らせぬを待たぬに依りてさうひける。乃女小のさうむぐも目
 拾ふも不意に方々の岩間をさうむぐもかちちのさうむぐもをんで髪をさうむぐもひひ
 つ。猶つ倒へ逃走せぬに依るる山有重。さうむぐも何れもさうむぐも同く。逃まふは
 女小彼方の岩間に關の入りもさうむぐも依りてさうむぐも不審と部堂を引
 俱へつ。さうむぐも岩間を空にひらいてさうむぐもさうむぐも若漢子。躊躇して居り
 ける。有重後者又下知をしてさうむぐもさうむぐも思ひなむとさうむぐもさうむぐも
 こむを綁めて有重が茶より引居へり。有重さうむぐもを執りてさうむぐもさうむぐも
 おびある。面がさうむぐも安んじ。暫時沈思居りしがかさをさうむぐも言語をさうむぐも
 大姫君の此地方は今日もさうむぐもさうむぐもさうむぐも知れぬさうむぐも爾はよ
 汝河入るもさうむぐもさうむぐも精まる知去比栗津亦よ亡びさうむぐも木
 骨が殘當るるやえん包まもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐも低て

居るはがは付面丸のさうむぐも涙をさうむぐも流さうむぐも云々。縁接しき總さうむぐもさうむぐも
 見えはさうむぐも道理あり。此處小久しき部堂は本田二部。辺經がさうむぐも果
 してはさうむぐも此の私に主君の私とさうむぐも名をさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐも
 正ふあさ後がさうむぐもさうむぐもて使はさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐも不審さうむぐも
 おかちさうむぐもさうむぐもさうむぐもて辺經は似さうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐも
 小入水して今さうむぐもさうむぐも人と使はさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐも
 死を免さうむぐもさうむぐもさうむぐも縁をさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐも
 とさうむぐもさうむぐもさうむぐも今さうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐも
 たうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐも
 さうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐも
 さうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐも
 さうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐもさうむぐも



の後神憐む志し。いそで報ひを受べきと固く辞す。彼は他の物活ふその素性。探り知るとまゝの縁論をうつく試る。物多織乃秀す。由ある
 ひとよめ。人の世を思ひ名を隠したるありぬべし。世人を揚ぐ用ひたが必し。固
 小易あらんと。心くバ知る招くはぬ。弟は勸めんと。世の私由厳む。
 さしてその光景。さまで下里ひひ。不圖勸小。心糸。心ひを
 述る。娘は。さす。君代。を述る。身じと。云は。あま。重往
 へ。撲。拍。く。さ。り。け。え。汝。艱。苦。の。うち。ふ。主。を。忘。れ。ぬ。志。気。感
 嘆。ま。る。小。余。ある。其。代。糸。の。心。也。し。近。月。うち。汝。を。て。我。許。は。招。き
 近。へ。時。置。よ。より。へ。殘。念。勸。め。上。ま。の。さ。ま。い。ひ。の。い。は。さ。て。お。き。ぬ。汝。が
 妻。の。姉。様。は。汝。が。目。今。生。へ。ど。身。有。重。大。津。ま。く。不。圖。猶。又。引。遭。い。か
 乱。ま。く。そ。の。心。を。ね。ひ。さ。ま。の。心。を。小。あ。ひ。む。と。相。俣。して。公。殘。念。小

下里が幸ゆ。ねえ。治。故。復。汝。が。死。を。嘆。き。お。り。あ。ま。り。既
 小。顔。残。念。と。せ。れ。汝。を。結。め。慰。め。て。さ。め。お。き。が。私。余。小。賢。き。は
 を。評。善。不。お。や。あ。け。ま。つ。して。大。姫。君。は。傳。へ。ぬ。則。ち。今。日。は。地。方。姫。君
 こと。世。の。ひ。ぬ。ま。賤。機。由。は。仇。也。例。小。侍。の。ら。の。主。勢。善。ま。く。存。り。う。へ
 安。堵。の。心。を。い。ま。す。今。速。く。小。對。面。を。遠。さ。ま。く。心。入。と。も。汝。が。顔。乃
 實。し。ま。小。賢。人。と。い。ひ。姫。君。の。ま。は。憚。る。こ。と。を。い。ふ。と。世。の。違。と。叶。は。し
 よ。ま。て。我。今。姫。君。の。世。様。が。身。の。眼。を。乞。ひ。相。俣。し。て。還。ん。と。る。小。我。錯。ふ。と
 給。へ。と。仁。愛。深。き。主。命。は。汝。小。迎。種。相。俣。首。主。の。慈。愛。を。感。謝。せ。る。と。今。時。を
 徳。老。實。亦。當。り。召。し。て。汝。よ。世。迎。種。相。俣。し。て。我。よ。ま。あ。り。銀。小。還。り。
 身。を。清。め。さ。う。夜。當。り。我。還。る。を。待。し。め。よ。と。慈。小。也。と。世。へ。彼。當。り
 心。を。の。こ。や。と。本。田。を。付。し。て。就。成。さ。う。と。息。き。ける。且。鏡。重。徳。を。姫。君。の

此亦よとく辺経が。ふふ末身縁を何人あけく。御機の方の眼をさす。

 姫君とまは瓜実を。おぼし御機を近く召あし。多し奴家由。汝由今日まで。

 同じ嬢の物多し。世にさるるまで。純く汝へ天の幸あらず。死せりとあふ。

 夫は再會する。そをせとけ。はる母上。又はあ。眼をさす。

 と言ふ。まよふも。美言の。心をもおぼし。出。涙。又。咽。又。ハ。御機。ハ。是。を。使。

 夫。不。違。ふ。不。疑。く。め。ど。大。姫。君。の。心。程。を。思。果。て。坐。さ。る。涙。ハ。御。小。あ。ま。り。ける。

 世。時。既。は。夫。の。言。も。思。ふ。り。く。ま。る。も。の。そ。不。あ。り。出。く。い。と。さ。海。が。ら。よ。

 又。け。且。不。違。御。声。を。言。ふ。女。方。一。々。目。ハ。西。小。向。つ。き。ゆる。ふ。雨。支。控。し。ゆ。む。

 今日。の。由。托。き。こ。ま。り。く。限。ま。る。と。く。心。不。は。心。還。里。然。る。べ。と。使。こ。ま。り。

 実。由。と。姫。君。と。ち。り。不。陪。後。ま。の。う。ま。女。房。由。姫。を。困。繞。く。足。早。は。幾。會。の。

 心。不。は。還。里。の。心。切。て。姫。君。ハ。御。機。が。る。を。母。上。由。不。あ。り。使。又。は。又。ハ。妹。背。の。契。

さるまじくと。御機は。眼を賜ふ。臣。御。を。相。俱。く。能。く。還。り。て。辺。経。は。

 御機を返す。あま。不。違。夫婦の再會。は。姫。く。も。又。哀。く。て。先。だ。つ。り。の。ハ。

 涙。の。ま。は。神。を。授。け。る。か。る。奇。偶。を。ま。る。上。ハ。偏。は。主。君。の。賜。り。の。と。支。ぬ。

 ハ。御。君。恩。の。辱。き。瓜。感。謝。せ。り。重。往。ハ。其。の。有。帝。と。相。談。く。本。田。ハ。弟。邊。経。

 小。住。心。妙。心。賜。ふ。昔。の。よ。く。召。仕。ひ。ぬ。さ。ま。こ。邊。経。が。勤。め。た。る。彼。代。系。の。

 隠。士。を。召。招。ん。と。表。さ。り。う。と。世。時。平。家。西。海。は。あ。り。く。世。間。釋。鑑。の。う。と。と。

 是。他。と。妨。あ。る。と。其。の。ハ。い。ま。果。さ。り。け。り。折。世。代。系。の。隠。士。と。い。の。か。る。

 九。回。の。末。は。鏡。給。せ。伊。場。十。三。の。の。え。行。十。三。合。瓜。贈。り。業。瓜。与。く。嫌。病。め。

 乞。巧。ハ。今。茲。小。鏡。給。ま。り。邊。経。ハ。あ。ま。本。田。ハ。性。名。を。ま。り。む。今。ま。こ。十。三。が。名。

 を。出。さ。の。こ。ま。り。人。の。名。瓜。出。く。解。し。易。う。と。ま。き。終。の。不。在。結。下。再。鏡。

 悪。七。兵。衛。景。法。ハ。主。家。平。氏。の。一。門。去。事。都。を。落。し。よ。り。相。後。ひ。く。西。海。は。下。り。

飛く主を敵今一回都より花咲く。数代の恩私報んと志を成し励まうて。その
 合戦は孫由縁をとりとどき名も勇威敵軍を靡せど一盃の水成りく。
 一車薪の火を救んとまらぶと争てよく做しぬき。文治元年三月長門
 國糟浦より先帝安徳天皇をもち平家の九族類をおく。さふ亡び
 失せしける運のまらぬを憐れ世も先景清の志成の戦い重傷を
 負ひて山内平家戦いさす思ひし令助まら。景清主家の亡
 ぶをば念骨殖小徳。歯切断腸の多ひを今見までと母をもち
 うも殆自害せんとうく熟し思惟はさも威槍めせらるし平家あらびて
 と直らぬは仇を報るののまら主家の私辱世入る。我不肖なるまら
 くと譜代恩私の老堂なる君父の仇あるを却を一大刀ありと恨まら。
 臣は道を失ふ炭を吞み力も添はし昔の縁續らぶと志を成し果さると

ても世傳は元とどき力もあつとさると忽ち自害死せらる。とく孫余入新
 人とまら平家亡びて幾日とあつ後まらと孫余も世辺はあひ居ると
 源氏よりいと老より樓ありを孫余も至らまらて擒とらふを急に入向ふ
 小由然おまら誓母彼不もあひ居く世の光景は空寂ひし小徳と源氏のまら
 も東國小針まら西國の方よりく小徳はさるまら今ハ時は孫余小
 立然とらとあひたはし其才平家の内より人ありとら。あまら谷衆
 とまらよまらまらと回國する修好者の總下打拵あひまら東國の方へ志
 さまはけと孫余まら店よりまら世不の故入道相國の心成用ひく海を築き一
 回都を僞さると地方とまらハ菓よりく彼方遠方を徘徊うら孫余はまら
 由礎をまらまらまら。境内裏の跡はまら宿して延うら。孫余まら小まらた
 懐旧の涙は圓び怒眼を僅はまら時をまら延はる宿強の噂はまら孫余まら

景清後編卷之一

十四

此をりて四方を窺ひ居る事あり須廣の内裏小く主上の内裏の裡より
 ありと外表より一の坐より相國入道切齒しく居りそよよと小松の内府より
 中納言友盛往ちて教経うんとそ氣ありける一門の人と決事を連絡し居
 並ひて時と管弦の音中めが主上の内裏の内よりして我入皇の裔として十
 善の位より昇りて後三年に満ちて忽ち西國の波より沈み陽府城辭す
 行の不ぬを故尤もに義朝が子姪小島源頼朝父の仇を執んとし
 入道相國兼は汝昔頼朝を流刑の配不ぬを
 へき小奈何るまは伊豆へ流し居る東國の義家より源氏その任國を
 被官恩赦のみの事にして流囚の力をりて東國の民を懐くそ
 牙殘念よりあつる事なり子承亦堂をもちて美仲を粟津より失ひ平家と
 播浦小亡とこととる神の失つると運轉の神より入道に畏とるおと

ありて頼朝の彼をもちて勅言をさぐ居りけるやあつて小松の内府に
 ありける勅後關るとありてと父入道平治の昔頼朝を捕へて
 ともいふ事と助る事存る事なり源氏の地は頼朝奈何る事なり
 頼朝が命然に小島母への存且つた源氏乃後孫絶さん正行る事なり
 存とて六終より一命を助く伊豆國への滴しよとよも縁有のゆえそ奈何
 とするは八幡國八牧大場伊東よりと平家三のりの多く待まへ時
 ありて頼朝謀反を止つとも先祖よりあるまじと忠ひの亦北条を初と
 ありて坂東の大名小名方人より威を東國に輝りて遂小臣が家次を
 割若までを羨み又僥幸はなすを思ひ入道に思ひあつる事なり
 おつてめとて固今奏中より慮へる事今日に至る事天下の
 爾は不らざる事とく明らかと涙を流しく奏しける時入道切齒しく

頼朝我を父の仇と習へく人を欺く片指のとき拳執る彼が父の義朝を
不忠不義の人として保えよハ父を殺し奉治ハ君を替へ酒を内殿に別款
たす六叔和命をさ家すく世大城と謀りて是王命ふくく私るらむを
父の仇と習へく人を欺く片指のとき拳執る彼が父の義朝を
を助け一徳恩を忘れあし徳は難き世成りては奸賊頼朝今ハ執カヒ
あつとも我家と亡まると懼ひ三代をささぐりて彼が家を亡さん君ハ
る成りて因今の仇を念を傷りまへ。嗚呼世なり一我家も後ろなまで
小亡ぶは誰う仇を報ひんとるものうきそ長けは且上嘆けは並居人
一討は難む声ハ正は孝拍他の音中しく須戸の浦ハの藤林愁のそハ醒
けは果てた忙然と傍を足は六限たる波拍限また一人今までつる
主家の一門大程と青へも頼ごうく因小遊公孫劉杖のとをささぐりて

父も主上の倫を思ふまゝ小松大原の真入の言誓あどむひまの世ハ道理せむ
ともある入道のいゝ怒りあふ心程ハささあふんと念の廣さくまの世頼朝
壁は漢城の裡ハ陽さく孟懐が如き勇士ハ守備をとも我をひたの復讐の
志を自王天の憐ませぬひるが中ら果さく盡き中と孤忠をおきて勇士乃
心操憐よるをよまるとあり。新くそ夜由ぬらり。撲去告る鳥のさ景法
てころづまよりの世よ去居して人よん替めく色んハ若者志を遂る妨り
とくくこ成立去人と多々頂き傳佛を脊よ志くと志を不き任方自がた
東方へと旗発けり

第十一回

命を養く三士平属を披む
園ましく両雄 假兵と逐ふ
去文治元年の三月源義経源二位の代官とく長門國榎浦ま。平家と

合戦及び平家利成先帝安徳天皇入氷島宗盛父子擒と
その外の一門及び討死或いは生捕らる。さう盛んに入平家一時は
ひ忽ち源氏討めつ。爾も平家の残党尚ほ忍び潛り。密に鎌倉
を窺ふ。その時、頼朝公、諸臣を集め、残党退治の爲、兵隊を
北条時政班を生く。今や源家一統の代とありとも。平家の残党木曾が
余類、多量に枕をさす。そのとさふあまき、素熟と思惟さる。平家の沙
堂も、中ふ悪七兵衛景清、六方夫、不當の勇士も。源平幾回の合戦
小一回も不覚をとりし。殊に櫃浦の戦い。三保谷との戦ひ。京師子
も、御之、御之、勇敢と書せし。平家滅亡の當時、景清が去向を知る者は
こゝ不審とひひ。近比、樹上の風声を、景清、主家の亡ぶ、おぼし
み。御之、報入と。力を、小、窺ひ。君、後、以、討人と。むす

源末智恵、源朝臣、景清、は、都は上。當今、を、清國、乃、兵
を、招く、る、は、大、な、る、事、に、及、ぶ。世、景、清、は、た、た、除、く、る、事、を、好、め、り、の、は、思、入
小、豆、も、今、勢、を、よ、る、事、に、中、る、捕、ら、れ、る、腕、を、誰、の、悔、あ、ら、ん、と、侍、へ
あ、ぶ、つ、大、隊、金、の、景、清、が、忠、義、の、勇、士、う、ら、い、我、等、て、笑、及、ぶ、汝、が、言、道、理
する、と、速、に、彼、を、生、捕、へ、と、命、も、い、ま、う、給、う、と、小、頼、朝、源、太、景、季、を、も、出、す、や
か、其、不、肖、な、く、も、命、を、奪、は、れ、は、忍、ぶ、事、に、捕、ら、れ、る、と、い、ふ、も、ろ、う、げ
不、述、と、し、大、重、忠、席、を、も、と、し、看、も、知、ら、ぬ、め、を、ど、く、景、清、は、當、世、の、勇、士、う、ら
執、力、を、も、と、し、獲、ら、る、事、に、思、入、を、も、つ、て、大、隊、に、感、へ、て、伏、し、一、人、入、り、て、か
ま、あ、れ、く、合、戦、の、事、を、い、ひ、こ、も、と、い、け、る。景、季、を、も、と、し、汝、が、言、道、理
か、ま、け、ど、生、田、太、右、衛、門、平、家、の、程、率、数、百、騎、と、戦、ひ、た、と、再、び、ま、で
追、應、れ、し、る、為、疾、も、負、た、り、と、陸、軍、を、還、り、し、ひ、つ、つ、と、知、ら、ぬ、め、を、も、と、し、平、家



企まざると思ひ候はせ。其れは。おとよ。の。御。由。成。る。運。の。お。百。愛。回。え。ん。し。う。り。
く。縛。糸。受。よ。や。と。事。も。お。小。黒。野。三。十三。町。と。う。ら。笑。ひ。燕。雀。何。ぞ。大。鵬。乃
心。張。知。ん。我。丁。を。汝。が。さ。さ。と。平。家。の。内。内。は。鬼。神。と。音。小。笠。一。竹。大。将。悪。七。彦。
曰。是。等。汝。お。如。き。小。お。め。く。と。縛。を。受。る。の。の。う。う。移。ど。お。不。縁。故。の。あ。る。ま。は。
る。瓜。搦。く。縛。糸。受。ん。と。さ。と。言。は。れ。物。う。ぬ。瓜。忠。太。假。名。下。知。瓜。は。は。そ。是。終。め
よ。と。言。得。の。ま。と。事。終。つ。ろ。小。お。び。き。り。と。目。今。近。事。假。兵。を。投。除。け。十。三。物。小
程。の。や。中。よ。る。場。お。太。と。中。の。我。丁。を。ま。の。景。清。ぞ。人。差。し。く。る。是。世。と。十。三。と
背。小。立。塞。る。瓜。十。三。八。又。景。清。を。引。除。く。を。事。出。と。お。假。名。を。景。清。は。と。是。よ
差。ひ。あ。さ。き。を。う。と。く。お。う。組。や。う。め。と。互。又。我。丁。を。我。と。と。事。う。瓜。ん。て。お
太。の。果。と。何。を。を。そ。と。知。ら。ざ。ば。何。と。も。お。毎。う。と。う。く。暫。射。跡。跡。居。り。け。が
お。瓜。を。と。ら。と。う。瓜。一。二。人。と。も。小。我。丁。と。景。清。の。り。と。名。事。う。と。と。と。と。

平家の残党ある人お、其れは。お。ま。の。景。清。瓜。乳。さ。ん。と。お。難。う。と。一。人。の。小。假
め。く。京。師。一。率。に。我。主。の。景。清。と。く。山。若。ら。う。く。搦。回。り。と。ま。假。兵。各。の。れ。る
捕。と。雜。兵。小。下。知。瓜。は。と。立。證。ぐ。景。清。十。三。は。う。う。對。ひ。足。下。か。今。日。の。物。と。う。
我。小。代。と。世。場。を。脱。し。志。事。を。果。さ。さ。さ。き。好。意。と。お。精。進。と。數。万。の。敵。も。恐
ま。ぬ。の。が。今。後。人。の。牙。と。う。の。ま。各。も。う。さ。倍。臣。つ。と。瓜。忠。と。豆。下。を。我。牙。乃
代。と。命。瓜。惜。む。控。病。の。の。と。と。豆。入。り。ア。を。無。念。の。は。豆。下。う。た。る。志。事。假
お。小。ま。と。う。め。い。の。う。さ。と。と。刀。の。目。針。の。流。く。わ。と。お。切。廢。う。く。北。地。方。を。豆。退。ん
と。お。う。う。心。き。止。め。多。ひ。と。と。腰。の。戒。刀。の。明。光。と。る。然。拔。う。さ。釋。る
假。名。の。中。小。面。お。あ。ら。と。斬。し。と。十。三。と。を。こ。ん。つ。ら。も。必。分。ら。し。め。の。と
豫。と。う。と。仕。備。あ。り。と。る。仕。込。の。刀。同。く。扱。て。切。ら。入。り。景。清。十。三。西。人。が。右
往。は。尤。往。小。斬。と。廻。り。忠。太。の。勢。の。り。と。い。と。鬼。神。を。欺。く。景。清。小。十。三。は。

書影 卷之二

九二

加りて烈しき太刀の尖くく。一盞茶時小伝六のの彼方這方一切伏らる。御ま
 入ねへけり。と御子入と散散がごとく。渾散く小逃失り。景清ハ尚こは逐逐行方
 手でもと兼ひ初を。十三ありやと引止め千鈞の努ハ難ハ麻の為。小機を獲せむ
 と云とある。彼ホハ名もある。匹夫あり。永逐る。と。失あふ大義を果せむ
 ありま。早く世場知立退き。時節ハ待て。と。練め小田原清実雨王
 と立止ま。十三ハ小太夫。多分。我ハ世不。又。告る者。の左
 て。今夜の竹。及び。是を。我家の。いと。公。下。我
 共。一。を。助。け。ま。し。と。付。ひ。侍。人。と。ま。さ。知。面。茶。の。方。一。人。の。武。士。外。編
 笠。小。面。以。覆。ひ。二。張。の。轡。子。を。解。き。や。世。不。を。さ。さ。く。ま。さ。ふ。ぞ。又。答。は。し。と
 而。人。ハ。只。有。木。陰。よ。立。忍。不。彼。武。士。ハ。不。一。二。張。の。轡。子。を。居。は。て。好。知。と。ゆ。り
 去。け。且。景。清。十。三。不。審。也。木。陰。知。立。出。轡。子。の。程。月。の。光。は。遠。く。見。え。ま。さ。ま

女子ふくむ。おぼしう。ごハ不審と。思ふ。ま。ち。茶。の。時。轡。子。より。我。夫。父。上。ま。こ。ま。

下。の。つ。う。と。物。び。出。景。清。が。左。右。ま。ど。と。ま。さ。く。好。知。と。い。ま。さ。く。怪。し。し。

の。阿。古。登。人。九。あ。ま。し。け。る。し。を。こ。ん。く。何。と。愕。然。し。り。後。ろ。の。轡。子。の。程。あり。ハ

母。の。五。十。奈。う。ろ。む。ひ。出。女。や。孫。の。意。慕。ハ。景。清。大。人。の。床。や。と。ま。さ。ふ。景。清。十。三

も。不。審。ハ。さ。う。小。陸。さ。り。け。る。と。今。世。不。一。阿。古。を。母。子。三。人。の。の。好。轡。子。一。葉

一。解。着。や。く。ま。さ。の。の。ハ。景。何。等。の。人。と。知。り。ま。さ。く。そ。の。景。清。十。三。不。審

を。続。く。知。り。ま。さ。く。

景清 松の操 後編 卷之一 終

景清 後編 卷之一

